

## カジメ磯焼け状況

2017年8月に黒潮大蛇行が発生して以降、2年以上が経過しましたが、現在のところ大蛇行が解消する兆候はないとされ、さらなる長期化が懸念されています。黒潮大蛇行は伊豆半島の磯根漁業に影響を与えますが、その一つにカジメの磯焼けがあります。磯焼けとは、海藻群落が広範囲で急速に枯れてしまう現象であり、カジメの磯焼けが起こると、餌を失ったアワビが餓死し、漁獲量が大きく減少します。

伊豆分場では、黒潮大蛇行が発生して以降、カジメ磯焼け調査を実施しています。また、その他の潜水調査時にもカジメ群落の様子を確認しています。ここでは、直近の調査で把握しているカジメ磯焼けの状況とともに、漁業者から寄せられた情報について報告します。

【伊豆山】2020年2月3日に、熱海市伊豆山地区の漁業者から、カジメが磯焼けしているとの連絡がありました。そして、2月7日に現在の海の様子として、水中写真を持参されました（写真1）。磯焼けの状況と発生経緯は次のようなものでした。

- ・ 熱海ビーチライン沿いに熱海から神奈川県湯河原まで全域でカジメが無くなった。
- ・ 子供の頃から潜っていて、カジメがなくなるなんて初めての現象。
- ・ 一昨年台風で石がひっくり返って、カジメが少なくなり、その後どんどんなくなっていった。
- ・ 今、カジメが生えていた場所は”じゃみじゃみ”（有節石灰藻）が生えている。
- ・ 磯焼けの原因は高水温のせいかな？

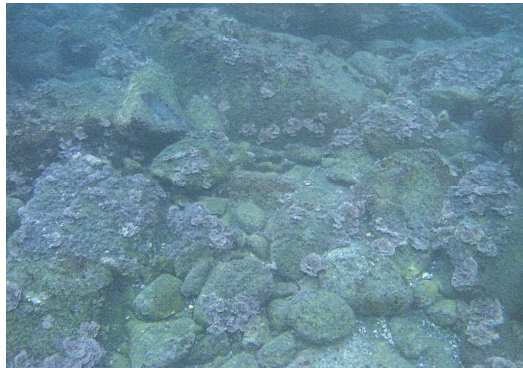


写真1 伊豆山のカジメ磯焼けの状況（撮影：2020年2月7日）

当场では、2002年に県下の海藻群落の聞き取り調査を行っており、熱海市伊豆山地区の結果は分場だより第293号に掲載しています。そのときに、伊豆山地区では一部の砂地を除き深いところでは水深15mまでカジメ群落が維持され充分繁茂していることを確認しており、それが無くなるとは信じられない思いでした。

磯焼けの原因として、黒潮大蛇行でカジメ磯焼けが発生しやすい状況であることから、高水温によるカジメの生長停滞に魚の食害が絡むというような複合の原因を想定しています。ウニ類はムラサキウニ、ガンガゼがいますが、ガンガゼは少ないことから、ウニによる磯焼けではないと判断していますが、ウニの密度を調べる必要がありそうです。

伊豆山地区では、潜水漁業が行われているため、回復のための対策を実施したい考えがあり、当场としても協力する予定です。

【谷津】河津町谷津地区では、毎年3月にテングサ作柄調査のための潜水を行っており、カジメ群落の様子も確認しています。写真2は、2019年3月28日に“ハツロウ”にて撮影したカジメ群落の様子です。昨年時点での、既に多くのカジメの葉部が消失し、茎だけになっていました。ただし、岩盤上に着生するカジメの幼体が確認できていました。しかし今年3月に同調査地点へ潜ってみると、昨年あった茎のほとんどが消失し、幼体が僅かに確認できる程度になっていました（写真2）。

漁業者の話では、水深10m以深ではカジメ群落が残っているとの話ですが、黒潮大蛇行の長期化によっては、さらに上記のような範囲が拡大することが懸念されます。



写真2 谷津の調査地点“ハツロウ”の状況  
(左：2019年3月28日 右：2020年3月13日)

【下流】南伊豆町下流地区でも、テングサ作柄調査時にカジメ群落の様子を確認しています。黒潮大蛇行が発生した翌年の2018年3月時点の状況は、分場

だより第 353 号に掲載していますが、その時点では、葉部が少ない状態ではありましたが、幼体が下草として密生していました。また 2019 年 3 月は、一部で葉部の凋落は見られたものの、十分に繁茂していることを確認していました（写真 3）。しかし今年 3 月に同地点へ潜ってみると、昨年とは様子が一変し、カジメの葉部は完全に消失していました。また、幼体は昨年までと比較して少ない状態でした（写真 3）。今後、この幼体が生長して夏を越えることができないと、磯焼けとなってしまいます。

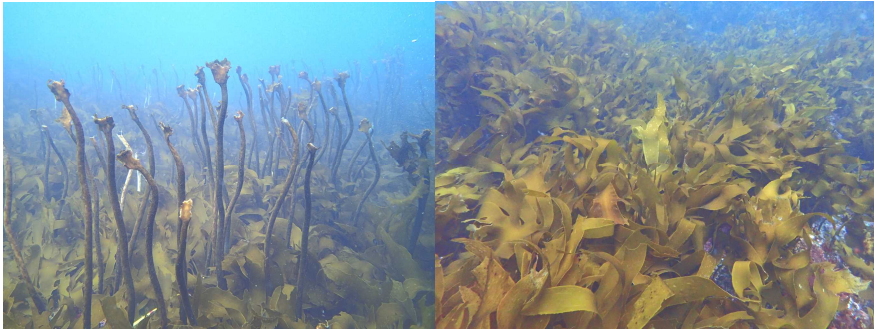


写真 3 下流の調査地点“ブダイモ”の状況

(上左：2018 年 3 月 27 日 上右：2019 年 3 月 26 日 下：2020 年 3 月 24 日)

ここまで報告した地区以外に、白浜地区の“八代”、外浦地区の“釜の浦”および須崎地区“中間”でも、今年 3 月時点において、一部のカジメ、アラメで葉部の消失が確認されています。今後、黒潮大蛇行が継続した場合には、磯焼けの発生、拡大が懸念されます。今一度、磯根漁場の様子の変化に注意を払うようお願いします。

(鈴木聡志・長谷川雅俊)